

予算特別委員会資料

令和3年度予算説明書

交通局

目 次

○ 令和3年度予算編成方針	1
I. 令和3年度予算の概要	
< 自動車事業会計 >	3
< 高速鉄道事業会計 >	13
1 業務の予定量	4
1 業務の予定量	14
(1) 運転計画表	4
(1) 運転計画表	14
(2) 建設改良事業の概要	4
(2) 建設改良事業の概要	14
2 収入支出一覧	5
2 収入支出一覧	15
(1) 収益的収入及び支出	5
(1) 収益的収入及び支出	15
(2) 資本的収入及び支出	5
(2) 資本的収入及び支出	15
3 予算実施計画	6
3 予算実施計画	16
(1) 収益的収入及び支出	6
(1) 収益的収入及び支出	16
(2) 資本的収入及び支出	8
(2) 資本的収入及び支出	18
4 債務負担行為	10
4 債務負担行為	20
5 企業債	10
5 企業債	20
6 一時借入金	10
6 一時借入金	20
7 他会計からの補助金	10
7 他会計からの出資金	20
8 たな卸資産の購入限度額	10
8 他会計からの補助金	20
(参考)	9
9 たな卸資産の購入限度額	20
令和3年度予定キャッシュ・フロー計算書	11
(参考)	
令和3年度予定貸借対照表	12
令和3年度予定キャッシュ・フロー計算書	21
令和3年度予定貸借対照表	22
II. 令和3年度主要事業	23

令和3年度予算編成方針

本市の交通事業は、市民の日常生活や経済活動に必要な不可欠な生活基盤としての役割を担い、その整備・充実に努めてきた。しかしながら、少子高齢化の進展、人口減少傾向の継続、施設の老朽化などに加え、地震や集中豪雨等の大規模災害の頻発、新たな感染症の拡大、ICT等の技術革新の進展など、公共交通を取り巻く環境が大きく変化しており、その中においても、市民に必要とされる公共交通であり続けるために、「市民の足」としての役割を積極的に果たすなど、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていくことが求められている。

そのため、これまでも公営交通としての役割と企業としての経済性の両立を果たすべく、厳しい経営環境、財政状況の中、「神戸市交通事業の経営計画プラン《レボリューション 2004》」（平成16年度～18年度）以降、数次にわたる経営計画に基づき、安全性の強化や利便性・快適性の向上を図るほか、乗客増対策や附帯事業の収入増対策などの収益力の強化、人件費の抑制・物件費の縮減等の経営の効率化に取り組んできた。

そして、令和3年度からの今後5年間について、「市民の足」を持続的に提供していくため、公営交通を将来にわたり安定的に運営していけるよう、今後の事業環境や課題を踏まえた経営の方針や事業戦略、財政計画を定めた「神戸市営交通事業 経営計画 2025」（計画期間：令和3年度～令和7年度）の策定を進めている。

その中において、基本的な考え方を「安全・安心の確保」、「快適なサービスの提供」という公共交通機関としての使命を果たすとともに、公営交通事業に求められる「市民の足の確保」を通じて、神戸市営だからこその意義・役割である「神戸のまちづくりに貢献」していくと定めており、経営計画で掲げた施策を着実に遂行するため、令和3年度に取り組むべき事業予算を編成した。

今後も「安定的な経営基盤を確立」とともに、職員一人ひとりが「チャレンジ精神」を持って、「デジタル技術の活用」など、未来に向けて新たに挑戦していくことで、「神戸の市民生活やまちの発展に貢献」していく。

I . 令和3年度予算の概要

〈自動車事業会計〉

1 業務の予定量

(1) 運転計画表

区 分	年 間	1 日 平 均	備 考
乗 車 人 員	54,164,175 人	148,395 人	敬老・福祉乗車人員等を含む
乗 車 料 収 入	9,157,149,000 円	25,088,079 円	敬老・福祉乗車負担金等を含む
運 転 走 行 キ ロ	17,257,529 km	47,281 km	
走行1キロ当り乗車人員	3.14人		
走行1キロ当り乗車料収入	530円62銭		
1 人 平 均 乗 車 料 収 入	169円06銭		
在 籍 車 両 数	514両		
1 日 平 均 運 転 車 両 数	442両		
乗 務 員 数	運転士259人		

(2) 建設改良事業の概要

事 業 名	概 要	事 業 費
建 物 建 設 工 事	バス停留所設置工事等	191,417
機 械 装 置 設 置	バス乗車ポイントシステム改修等	171,588
車 両 改 良 工 事	ドライブレコーダー更新等	28,233
合 計		391,238

2 収入支出一覧

(1) 収益的収入及び支出

(単位：千円)

収 入			支 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1	自動車 事業収益	10,476,887	1	自動車 事業費	11,484,774
	1 営業収益	9,448,359		1 営業費用	11,173,033
	2 営業外収益	1,028,528		2 営業外費用	261,741
				3 予備費	50,000

(注) 当年度純損益(税抜)は △1,016,242千円、累積損益は △887,267千円となる。

(2) 資本的収入及び支出

(単位：千円)

収 入			支 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1	資本的収入	546,735	1	資本的支出	679,934
	1 企業債	391,000		1 建設改良費	391,238
	2 他会計繰入金	154,240		2 企業債償還金	268,696
	3 財産収入	1,245		3 予備費	20,000
	4 雑収入	250			

(注) 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額133,199千円は、
損益勘定留保資金等で補てんするものとする。

3 予算実施計画

(1) 収益的収入及び支出

①収 入

款	項	目	予 定 額	説 明
1 自動車事業収益	1 営業収益		千円	
			10,476,887	
			9,448,359	※参考
		1 運輸収入	7,436,079	乗車料金
		2 他会計負担金	1,721,070	敬老・福祉乗車負担金等
		3 運輸雑収入	291,210	広告料等
		2 営業外収益	1,028,528	
		1 受取利息及配当金	3	預金利息
		2 県補助金	6,636	運輸事業振興助成補助金
		3 他会計補助金	975,904	自動車事業運営のための他会計補助金
		4 長期前受金戻入	9,686	減価償却等に対応する長期前受金の収益化
		5 他会計繰入金	3,000	交通事業基金運用益の繰入金
6 雑収入	33,299	負担金収入等		

※参考

年 間

1 日平均

乗 車 人 員

54,164千人

148,395人

乗 車 料 収 入

9,157,149千円

25,088千円

1 人平均乗車料収入

169円06銭

②支 出

款	項	目	予 定 額	説 明	
1 自動車事業費	1 営業費用		千円		
			11,484,774		
			11,173,033		
		1 建物保存費	56,594	建物の維持補修に必要な費用	
		2 車両保存費	994,723	車両の維持補修に必要な費用	
		3 運 転 費	8,689,533	運転に必要な費用	
		4 運輸管理費	670,815	運輸管理に必要な費用	
		5 一般管理費	289,883	一般管理に必要な費用	
		6 減価償却費	471,485	固定資産減価償却費	
			261,741		
			1 支払利息及 企業債諸費	62,558	企業債等の支払利息及び諸手数料
			2 消 費 税	199,146	消費税及び地方消費税納付額
			3 雑 支 出	37	
	2 営業外費用				
	3 予 備 費				
		1 予 備 費	50,000		

給与費内訳

職員424人（短時間勤務職員46人を含む）の報酬44,919千円、給料 1,367,426千円、手当等 1,545,478千円、法定福利費585,200千円を計上

(2) 資本的収入及び支出

①収 入

款	項	目	予 定 額	説 明
1 資本的収入	1 企業債		千円	
			546,735	
			391,000	
		1 企業債	391,000	建設改良費に充当する企業債
		2 他会計繰入金	154,240	
		1 他会計繰入金	154,240	高速鉄道事業会計からの繰入金
		3 財産収入	1,245	
		1 財産収入	1,245	資産売却代等
4 雑収入		250		
	1 雑収入	250		

②支 出

款	項	目	予 定 額	説 明
1 資 本 的 支 出	1 建 設 改 良 費		千円	
			679,934	
			391,238	
		1 建 設 費	50,030	バス停留所設置工事等
		2 改 良 費	341,208	バス乗車ポイントシステム改修等
		2 企 業 債 償 還 金	268,696	
		1 企 業 債 償 還 金	215,696	企業債元金償還金
		2 資 本 費 平 準 化 債 償 還 金	53,000	資本費平準化債元金償還金
3 予 備 費	1 予 備 費		20,000	
			20,000	

4 債務負担行為

事 項	期 間	限 度 額
自動車事業修繕等 (令和3年度)	令和3～4年度	30,000千円
自動車事業建設 (令和3年度)	令和3～4年度	150,000千円

5 企業債

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
自動車事業	千円 391,000	公債証券の発行 又は消費貸借の 方法により、借 り入れる（他の 地方公共団体と の共同発行を含 む。）。	9%以内 (ただし、利 率見直し方式 で借り入れる 資金につい て、利率の見 直しを行った 後において は、当該見直 し後の利率)	借入日の翌日から据置期 間を含め、30年以内に毎 年度元利均等その他の方 法により償還する。ただ し、財政上の都合等によ り定額以上を償還し、又 は借り換えることができ る。政府資金を借り入れ る場合は、その融資条件 による。
特別減収対策	793,000			
合 計	1,184,000			

6 一時借入金

借入限度額 4,500,000 千円

7 他会計からの補助金 809,904 千円

8 たな卸資産の購入限度額 15,000 千円

(参考)

令和3年度神戸市自動車事業会計予定キャッシュ・フロー計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：千円)

1	業務活動によるキャッシュ・フロー	
	当年度純損失	△ 1,016,242
	減価償却費	471,485
	退職給付引当金の増減額	△ 141,811
	賞与・法定福利費引当金の増減額	△ 26,336
	長期前受金戻入	△ 9,686
	受取利息及び受取配当金	△ 3
	支払利息	55,910
	長期預り金増減額	△ 9,345
	固定資産除却損	8,207
	未収金の増減額	△ 34,432
	未払金の増減額	△ 202,515
	前受金の増減額	△ 135,865
	預り金の増減額	△ 22,478
	消費税資本的収支調整額	37,383
	小計	△ 1,025,728
	利息及び配当金の受取額	3
	利息の支払額	△ 55,910
	業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,081,635
2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	固定資産の取得による支出	△ 411,238
	財産収入による収入	1,245
	雑収入による収入	250
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 409,743
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	建設改良費等の財源に充てる企業債収入	391,000
	建設改良費等の財源に充てた企業債償還	△ 268,696
	特別減収対策企業債発行による企業債収入	793,000
	一時借入による収入	4,500,000
	一時借入金の返済による支出	△ 4,500,000
	他会計繰入金による収入	154,240
	財務活動によるキャッシュ・フロー	1,069,544
	資金増加額	△ 421,834
	資金期首残高	995,461
	資金期末残高	573,627

令和3年度神戸市自動車事業会計予定貸借対照表

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
固 定 資 産	17,727,387	固 定 負 債	11,244,990
運送施設有形固定資産	36,272,633	企 業 債	8,270,003
減 価 償 却 累 計 額	△ 18,625,479	引当金(退職給付引当金)	2,743,728
計	17,647,154	そ の 他 固 定 負 債	231,259
関連施設有形固定資産	161,633	流 動 負 債	3,983,723
減 価 償 却 累 計 額	△ 132,085	一 時 借 入 金	1,100,000
計	29,548	企 業 債	339,799
運送施設無形固定資産	15,699	未 払 金	1,239,509
関連施設無形固定資産	8,248	前 受 金	838,839
投 資	26,738	預 り 金	167,166
流 動 資 産	1,926,020	引当金(賞与等引当金)	220,260
現 金 預 金	573,627	そ の 他 流 動 負 債	78,150
未 収 金	1,346,932	繰 延 収 益	206,174
貯 蔵 品	5,461	長 期 前 受 金	2,485,103
		収 益 化 累 計 額	△ 2,278,929
		資 本 金	4,688,739
		自 己 資 本 金	
		自 己 資 本 金	4,688,739
		剰 余 金	△ 470,219
		資 本 剰 余 金	3,090,553
		利 益 剰 余 金	△ 3,560,772
		未 処 分 利 益 剰 余 金	△ 3,560,772
合 計	19,653,407	合 計	19,653,407

I . 令和3年度予算の概要

〈高速鉄道事業会計〉

1 業務の予定量

(1) 運転計画表

区 分	年 間	1 日 平 均	備 考
乗 車 人 員	97,331,995 人	266,663 人	敬老・福祉乗車人員等を含む
乗 車 料 収 入	18,295,155,000 円	50,123,712 円	敬老・福祉乗車負担金等を含む
運 転 走 行 キ ロ	22,327,111 km	61,170 km	
走行1キロ当り 乗 車 人 員	4.36人		
走行1キロ当り 乗 車 料 収 入	819円41銭		
1 人 平 均 乗 車 料 収 入	187円97銭		
在 籍 車 両 数	238両		
1 日 平 均 運 転 車 両 数	191両		
列 車 編 成	(西神・山手・北神線) 6両編成	(海岸線) 4両編成	
乗 務 員 数	運転士118人 車掌55人		

(2) 建設改良事業の概要

事 業 名	概 要	事 業 費
高 速 鉄 道 建 設	新長田駅大規模改修工事，可動式ホーム柵設置工事、西神・山手線 新造車両購入，変電施設更新工事，連動装置・ATC装置更新工事，列車無線設備更新工事，総係費等	15,299,837 千円
付 帯 事 業 建 設	名谷駅ビルのリニューアル及び拡充(駅ビル北館の新設)、ほか駅ビル設備改修工事等	1,539,207
合 計		16,839,044

2 収入支出一覧

(1) 収益的収入及び支出

(単位：千円)

収 入			支 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1	高速鉄道 事業収益	23,877,991	1	高速鉄道 事業費	26,878,245
	1 営業収益	20,241,659		1 営業費用	24,315,877
	2 営業外収益	3,636,332		2 営業外費用	2,512,368
				3 予備費	50,000

(注) 当年度純損益(税抜)は △4,142,097千円、累積損益は △77,859,338千円となる。

(2) 資本的収入及び支出

(単位：千円)

収 入			支 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1	資本的収入	20,352,977	1	資本的支出	28,985,851
	1 企業債	13,117,000		1 建設改良費	16,839,044
	2 出資金	2,919,000		2 企業債償還金	11,567,465
	3 補助金	3,191,875		3 投資	345,102
	4 財産収入	152,160		4 保証金返還金	80,000
	5 基金繰入金	780,000		5 他会計繰出金	154,240
	6 雑収入	192,942			

(注) 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額8,632,874千円は、
損益勘定留保資金等で補てんするものとする。

3 予算実施計画

(1) 収益的收入及び支出

①収 入

款	項	目	予 定 額	説 明
1 高速鉄道事業収益	1 営業収益		千円	
			23,877,991	
			20,241,659	※参考
		1 運輸収入	16,858,125	乗車料金
		2 他会計負担金	1,437,030	敬老・福祉乗車負担金等
		3 運輸雑収入	1,319,048	広告料等
		4 付帯事業収入	627,456	土地物件貸付料
		2 営業外収益	3,636,332	
		1 受取利息及配当金	83	預金利息
		2 他会計補助金	1,499,565	高速鉄道事業運営のための一般会計補助金
		3 長期前受金戻入	1,996,020	減価償却等に対応する長期前受金の収益化
		4 基金繰入金	123,000	
		5 雑収入	17,664	

※参考

年 間

1日平均

乗 車 人 員 97,332千人 266,663人

乗 車 料 収 入 18,295,155千円 50,124千円

1人平均乗車料収入 187円97銭

②支 出

款	項	目	予 定 額	説 明
1 高速鉄道事業費	1 営業費用		千円	
			26,878,245	
			24,315,877	
		1 線路保存費	1,229,659	線路施設等の維持補修に必要な費用
		2 電路保存費	1,270,418	電路施設の維持補修に必要な費用
		3 車両保存費	947,485	車両の維持補修に必要な費用
		4 運 転 費	4,488,837	運転に必要な費用
		5 運 輸 費	2,766,872	駅務に必要な費用
		6 運 輸 管 理 費	1,787,372	運輸管理に必要な費用
		7 一 般 管 理 費	1,116,538	一般管理に必要な費用
		8 減 価 償 却 費	10,708,696	固定資産減価償却費
			2,512,368	
			2,343,368	企業債等の支払利息及び諸手数料
			169,000	自動車事業会計への繰出金
			3 予 備 費	50,000
	1 予 備 費	50,000		

給与費内訳

職員647人（短時間勤務職員33人を含む）の報酬39,137千円、給料 2,376,656千円、手当等 2,973,324千円、法定福利費 1,027,856千円を計上

(2) 資本的収入及び支出

①収 入

款	項	目	予 定 額	説 明
			千円	
1 資 本 的 収 入			20,352,977	
	1 企 業 債		13,117,000	
		1 企 業 債	12,702,000	建設改良費に充当する企業債
		2 特 例 債	415,000	企業債支払利息の一部に充当する企業債
	2 出 資 金		2,919,000	
		1 他 会 計 出 資 金	2,919,000	高速鉄道建設のための一般会計出資金
	3 補 助 金		3,191,875	
		1 他 会 計 補 助 金	2,982,593	高速鉄道建設のための一般会計補助金
		2 国 庫 補 助 金	209,282	高速鉄道建設のための国庫補助金
	4 財 産 収 入		152,160	
		1 基 金 収 入	152,160	交通事業基金運用益
	5 基 金 繰 入 金		780,000	
		1 基 金 繰 入 金	780,000	保証金返還金等に充当する基金繰入金
	6 雑 収 入		192,942	
		1 保 証 金	192,942	駅ビル・駅構内店舗からの保証金

②支 出

款	項	目	予 定 額	説 明
1 資 本 的 支 出	1 建 設 改 良 費		千円	
			28,985,851	
			16,839,044	
		1 建 物 費	3,292,602	停車場建設費等
		2 線 路 設 備 費	159,164	土木工事費等
		3 電 路 設 備 費	2,825,776	電力線施設建設費等
		4 車 両 費	7,143,073	車両改良費
		5 機 械 装 置 費	1,722,421	停車場機械建設費等
		6 総 係 費	156,801	職員給与費等
		7 付 帯 事 業 建 設 費	1,539,207	駅ビル設備改修工事等
		2 企 業 債 償 還 金	11,567,465	
		1 企 業 債 償 還 金	8,344,634	
		2 特 例 債 償 還 金	594,980	
		3 資 本 費 負 担 緩 和 債 償 還 金	1,131,259	
		4 資 本 費 平 準 化 債 償 還 金	1,496,592	
		3 投 資	345,102	
		1 投 資	345,102	交通事業基金造成費
4 保 証 金 返 還 金	80,000			
1 保 証 金 返 還 金	80,000	駅ビル・駅構内店舗への保証金返還金		
5 他 会 計 繰 出 金	154,240			
1 他 会 計 繰 出 金	154,240	自動車事業会計への繰出金		

給与費内訳

職員13人の給料 55,313千円、手当等 75,968千円、法定福利費 23,003千円を計上

4 債務負担行為

事 項	期 間	限 度 額
高速鉄道事業修繕等 (令和3年度)	令和3～4年度	83,000千円
高速鉄道事業建設 (令和3年度)	令和3～7年度	15,774,000千円

5 企業債

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
高速鉄道事業	千円 12,702,000	公債証券の発行 又は消費貸借の 方法により、借 り入れる（他の 地方公共団体と の共同発行を含 む。）。	9%以内 (ただし、利率見 直し方式で借り入 れる資金につい て、利率の見直し を行った後におい ては、当該見直し 後の利率)	借入日の翌日から据置期 間を含め、40年以内に毎 年度元利均等その他の方 法により償還する。ただ し、財政上の都合等によ り定額以上を償還し、又 は借り換えることができ る。政府資金を借り入れ る場合は、その融資条件 による。
特 例 債	415,000			
合 計	13,117,000			

6 一時借入金

借入限度額 17,458,000 千円

7 他会計からの出資金 2,919,000 千円

8 他会計からの補助金 4,482,158 千円

9 たな卸資産の購入限度額 200,000 千円

(参考)

令和3年度神戸市高速鉄道事業会計予定キャッシュ・フロー計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：千円)

1	業務活動によるキャッシュ・フロー	
	当年度純利益	△ 4,142,097
	減価償却費	10,708,696
	固定資産除却損	589,449
	長期前受金戻入	△ 1,996,020
	退職給付引当金の増減額	△ 58,995
	賞与・法定福利費引当金の増減額	△ 18,582
	長期前受金収入	△ 2,892
	受取利息及び受取配当金	△ 83
	支払利息	2,282,071
	消費税資本的収支調整額	1,226,819
	未収金の増減額	702,678
	未払金の増減額	49,951
	小計	9,340,995
	利息及び配当金の受取額	83
	利息の支払額	△ 2,282,071
	業務活動によるキャッシュ・フロー	7,059,007
2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	固定資産の取得による支出	△ 16,839,044
	固定資産の取得にかかる補助金収入	517,370
	投資による支出	△ 345,102
	財産収入による収入	152,160
	基金繰入金による収入	780,000
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,734,616
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	一時借入による収入	17,458,000
	一時借入の返済による支出	△ 17,458,000
	建設改良費等の財源に充てる企業債収入	13,117,000
	建設改良費等の財源に充てた企業債償還	△ 11,567,465
	出資金による収入	2,919,000
	補助金による収入	2,674,505
	雑収入による収入	192,942
	保証金償還による支出	△ 80,000
	他会計繰出金による支出	△ 154,240
	財務活動によるキャッシュ・フロー	7,101,742
	資金増加額	△ 1,573,867
	資金期首残高	12,394,136
	資金期末残高	10,820,269

令和3年度神戸市高速鉄道事業会計予定貸借対照表

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
固 定 資 産	265,328,091	固 定 負 債	171,706,449
運送施設有形固定資産	545,595,130	企 業 債	162,594,403
減価償却累計額	△ 289,395,917	引当金(退職給付引当金)	6,112,994
計	256,199,213	その他固定負債	2,999,052
付帯事業有形固定資産	15,771,287	流 動 負 債	21,200,672
減価償却累計額	△ 10,944,774	一 時 借 入 金	—
計	4,826,513	企 業 債	12,772,665
運送施設無形固定資産	700,219	未 払 金	6,152,831
投 資	3,602,146	前 受 金	1,639,902
流 動 資 産	15,929,569	預 り 金	193,259
現 金 預 金	10,820,269	引当金(賞与等引当金)	430,543
未 収 金	4,970,334	その他流動負債	11,472
貯 蔵 品	138,377	繰 延 収 益	51,257,360
その他流動資産	589	長 期 前 受 金	129,526,977
		収益化累計額	△ 78,269,617
		資 本 金	99,987,900
		剰 余 金	△ 62,894,721
		資 本 剰 余 金	14,964,617
		利 益 剰 余 金	△ 77,859,338
		未処分利益剰余金	△ 77,859,338
合 計	281,257,660	合 計	281,257,660

Ⅱ. 令和3年度主要事業

〈自動車事業会計・高速鉄道事業会計〉

令和3年度主要事業

1. 安全・安心・信頼の確保

7,726,465千円

- ・平成31年4月21日に起こした市バス重大事故を絶対に忘れず、最高の安全確保に向け総力をあげて取り組み、安全で安心な運行を徹底する。

《安全運行の徹底／安全運行を支える基盤の構築》

(1) 再発防止に向けた研修・取り組み

重大事故を過去のものとして風化させないため、毎年4月16日～5月15日を「市バス事故ゼロ・安全安心運転推進月間」に設定し、“4月21日を忘れない”取り組みを引き続き実施する。

また、各営業所の過去の事故事例から事故の特徴や危険箇所を共有する事故防止研究会を継続実施するほか、他事業者のヒヤリハット事例の活用や外部の知見も活用した、安全確保に向けた研修を行う。

再発防止のための市バス運転士に対する取り組み（ソフト面）並びに市バス車両に関する取り組み（ハード面）をあわせて進めていくとともに、安全報告書に具体的に記載しホームページで公表することで、市民やお客様に対して「見える化」を図る。

(2) ドライブレコーダーの更新に合わせた安全運行に対する評価の実施

現在、ドライブレコーダーの順次更新を行っており、令和3年度は75台の更新を行う。

ドライブレコーダーに搭載されている運転評価機能（デジタルタコグラフ）を使用した各市バス運転士の詳細な運転操作の把握と管理職等による添乗調査によって、安全運行に対する評価を実施する。

(3) 新型車両の導入

西神・山手線の車両全編成の更新を行う。既に契約済みの28編成については令和4年度まで順次導入し、令和3年度は7編成を導入する。合わせて、旧北神車両についても1編成更新するほか、より効率的な運行体制や今後のホームドア設置にあわせた一部ダイヤ改正の検討を進める。

(4) 西神・山手・北神線ホームドアの設置

駅ホームからの転落や車両との接触事故を防止するため接触事故の防止に有効なホームドアを、西神・山手・北神線全駅に令和5年度末までに設置する。令和3年度は、新長田駅・西神中央駅・名谷駅・新神戸駅への設置を進める。

(5) 西神・山手線駅施設の老朽化対策

西神・山手線は、開業より40年以上経過し、駅施設の老朽化が進んでいるため、順次改修を行っていく。令和3年度については、新長田駅の実施設設計および工事に着手するとともに、板宿駅の設計業務を行う。

(6) 地下鉄駅施設のユニバーサル対応の推進

ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備を進めていく。令和3年度は、湊川公園駅西口エレベーター設置工事を行うほか、現在のバリアフリー基準に適合したエレベーター改修（上沢駅・新神戸駅）を行う。

(7) 新型コロナウイルス感染症防止対策の実施

お客様に安心して市バス・地下鉄をご利用いただくために市バス・地下鉄の全車両に抗菌・抗ウイルス加工を実施している。また、駅施設・車内の定期的な消毒のほか換気対策（換気装置による他、窓を開けての換気を実施）や駅構内等における感染症防止策の啓発放送を引き続き実施する。

2. 快適で質の高いサービスの提供

274,671千円

- ・より快適で、より使いやすい市バス・地下鉄とするため乗り場やダイヤの「わかりにくさ」を解消するなど、すべての人にとって、よりわかりやすく、使いやすいサービスを提供する。

《快適なサービスの提供／「わかりやすさ・使いやすさ」の提供・追求》

(1) 市バスポイントサービスの開始

令和3年4月から市バスにおける乗車ポイントサービスを開始する。ポイントサービスは山陽バスとの共通サービスとして実施し、ご利用額に応じたポイントは市バス・山陽バスの乗車時にご利用いただける制度として運用する。制度開始にあたり、広報こうべや車内広告などにより市バス利用者への周知に努めていく。

また、ポイントサービスの開始にあわせ、市バス専用カード・市バス昼間専用カード・市バス磁気定期券については順次、発売を終了する。

【制度概要】

○対象 IC カード：ICOCA 等

○対象バス路線：市バス（普通区・近郊区・共用区）、山陽バス（高速バス除く）、神戸交通振興（神戸山麓線・山手線）

○ポイント付与：毎月の利用額に応じて翌月15日に付与

・普通ポイント：2,100円/月未満 5% 2,100円/月以上 10%

・昼間ポイント（降車時刻が9:30～16:00）

：2,100円/月未満 15% 2,100円/月以上 30%

○ポイント有効期限：付与後1年間（12か月後の月末に失効）

(2) ポイントサービスなどを活用した新たなサービスの検討

より使いやすいサービス提供を目指し、この度開始するポイントサービスを活用した新たなサービスの検討を行う。また、地下鉄におけるポイントサービスやスマートフォンの活用による定期券や乗車券のデジタル化など新たな施策の検討を進める。

(3) 定期券購入の利便性向上

定期券購入の利便性向上と定期券購入時の混雑緩和を図るため、市東部地域に自動定期券発売機を設置する。

(4) お客様サービス・マナーの向上

市バスではお客様からのご意見やご要望のデータ分析をもとに個別指導を強化していくとともに、優良市バス運転士による添乗研修を実施する。また、ご意見の実態を市バス各営業所間で情報共有し対応を協議検討する。そのほか、自動車運転士ハンドブックの更新や外部講師による接客研修、定期教育訓練におけるマナー研修を行う。

地下鉄では、市バス同様にお客様からのご意見等を逐次共有して改善に生かすとともに、外部講師による接客研修、定期教育訓練におけるマナー研修を引き続き実施し、市バス・地下鉄とも一層のサービス・マナー向上を図る。

(5) 地下鉄駅出入口への大型サイン（ロゴマーク）設置

地下鉄駅の地上出入口に、デザイン性にも配慮した共通デザインの大型サインを設置することで、駅の出入口をわかりやすくし、利便性の向上を図る。令和3年度に、デザインの設計及び一部モデル駅での設置工事を行い、令和4年度までに全駅に設置完了する。

(6) バス停の位置情報オープンデータ化

利用者が地図アプリや検索・案内アプリ等でバス停の位置を正確に把握出来るように必要な位置情報のオープンデータ化を進める。

3. 「市民の足」の確保

100,851 千円

- ・「市民の足」としての役割を積極的に果たし、神戸のひとの暮らしとまちの発展を支えていくとともに、お客様の声を貴重な経営資源と捉え、もっと乗っていただけ、必要としていただける公営交通をめざす。

≪「市民の足」の確保・維持／もっと乗っていただける公営交通の実現≫

(1) 市バス IC カード 2 タッチ化による乗降データの活用

令和3年3月より市バス IC カード 2 タッチ化を開始する。バスダイヤ 1 便ごとの乗降データの取得が可能となるため、ご利用実態がよりの確に把握しやすくなることから乗降データを有効に活用したバス路線・ダイヤ編成に向けての検討を行う。

(2) 「データに基づく持続可能な路線バス網の構築に関する考え方」の策定

市バス IC カード 2 タッチ化により得られた客観的データ等移動需要を継続的に把握するとともに、移動需要に応じたバス路線を設定していくための「基本的な考え方」を策定する。適切な路線バスの設定、路線バスと小規模な交通手段との役割分担を図ることにより、きめ細やかで持続可能な交通環境の形成をめざす。

(3) お客様の意見の積極的な収集について

交通局ホームページのお問合せフォームにアクセスできる「QR コード」のステッカーを市バス主要停留所に掲出し、積極的に意見や要望を募る。いただいた意見や要望を貴重な資源として活用しサービスの充実を図る。

(4) 摩耶山（まやビューライン）・六甲山（六甲ケーブル）等への輸送力強化

平成 30 年度から運行してきた六甲・摩耶急行バスを、三宮から摩耶ビューライン、JR 六甲道及び阪急六甲から六甲ケーブル下への急行バスに再編する。また、JR 六甲道からの急行便は、神大国際文化科学研究科前に停車することにより、神戸大学へのアクセスの利便性向上を図る。

【令和 2 年度まで】

系統	運行区間	内 容	備考
六甲・摩耶急行バス	三宮駅ターミナル前～地下鉄三宮駅前～新神戸駅前～摩耶ケーブル下～六甲ケーブル下	摩耶山・六甲山に行く観光客の利便性の向上のため、市街地から摩耶ケーブル下、六甲ケーブル下へ直通で行く路線を運行した。 平土休：往路 6 本、復路 6 本	令和 2 年 4 月 24 日～11 月 30 日

【令和 3 年度】

系統	運行区間	内 容	備考
18 系統急行便	三宮駅ターミナル前～地下鉄三宮駅前～新神戸駅前～摩耶ケーブル下	三宮から摩耶ケーブル下までの急行バスをまやビューラインの運行に合わせて運行し、摩耶山への観光客のアクセスの利便性向上を図る。 月水木：往路 4 本、復路 2 本 金土休：往路 7 本、復路 4 本 ※火曜日はまやビューラインが運休のため運休 ※夏季休暇期間（7 月 20 日～8 月 31 日）は増便予定	令和 3 年 4 月 24 日～11 月 30 日
106 系統急行便	JR 六甲道～神大国際文化科学研究科前～六甲ケーブル下	JR 六甲道、阪急六甲から神大国際文化科学研究科前、六甲ケーブル下への急行バスを運行し、六甲山及び神戸大学へのアクセスの利便性向上を図る。 平土休：往路 18 本、復路 18 本（予定）	

4. 神戸のまちづくりへの貢献

1,427,693 千円

- ・神戸の公共交通ネットワークの中心的存在である交通局がリーダーシップを発揮し、市民の移動を公共交通全体で支えていくとともに、神戸市が目指す将来像に向けた施策との連携により、まちづくりや都市経営に貢献する。

《公営交通としてまちづくりに貢献／市バス・地下鉄の連携、シームレス化》

(1) 市バス普通区 IC 定期券の拡充

市バス普通区 IC 定期券について、普通区内の神姫バスにも乗車できるように拡充し、サービス向上を図るとともに市内公共交通サービスのシームレス化を進める。これにより、令和3年4月から運行開始予定の神姫バス(株)の連節バス (PortLoop) にも乗車可能となるほか、神戸交通振興(株)が運行するシティー・ループを期間限定の割引運賃100円で乗車できるように拡充し、市バス普通区定期券の付加価値と市民サービスの向上を図る。

(2) 西神・山手線拠点駅(名谷・新長田・三宮・西神中央)のリノベーション

①名谷駅ビルのリニューアル及び拡充(駅ビル北館の新設)

「リノベーション・神戸」の一環として、名谷駅ビルの改修と駅の北側に駅ビル北館を新設し、あわせて、テナント再編等による利便施設の拡充に取り組む。令和3年度は基本設計・実施設計と、北館建設工事に着手する。令和5年度に北館オープンの後、駅ビル本体のリニューアル工事に着工し、令和6年度の全体リニューアル完成を予定している。

②新長田駅リニューアル

拠点駅の魅力アップの観点からデザイン性を重視したリニューアル案として『「緑と光」～風に揺れる木々のゆらぎや光を抽象化した未来的な駅空間～』を市民の声を取り入れた上で決定した。令和3年度は実施設計と工事に着手し、令和5年度の完成を目指す。

③三宮駅東コンコースリニューアル

都心三宮再整備事業および「さんちか」のリニューアルに合わせて、西神・山手線三宮駅東コンコースの内装(床・壁・天井等)のリニューアル(令和3年度に設計着手、令和5年度完成予定)を行い、都心三宮の拠点駅の魅力向上を図る。

④西神中央駅百貨店ビルの全館オープン・駅ステンドグラス改修

西神中央駅百貨店ビル(旧そごう西神店)について、令和2年12月に1階及び5階の一部を西神中央駅ショッピングセンターとして臨時開業した。今後、一部設備の改修を行い、令和3年11月の全館オープンを目指す。あわせて隣接する西神中央駅立体駐車場のトイレ設備を改修する。

また、「リノベーション・神戸」の一環として、地域の玄関口である西神中央駅の東西出入口に取り付けられているステンドグラスの改修を行う。

(3) 海岸線の集客増対策や地域活性化への貢献

海岸線開業 20 周年を迎えることから、記念グッズの販売や 2020 年生まれの赤ちゃんの手形をアート作品として海岸線の駅に設置する。

また、海岸線全駅へストリートピアノを設置するとともに、こべっこランドの移転を契機にイベントや駅舎内の装飾等を行い、子どもに親しんでもらえるように和田岬駅のイメージアップを図る。そのほか、沿線地域の元気や魅力を駅の広告媒体やウェブを通じて発信し、地域活性化に貢献する。

(4) 北神地域の地域活性化への貢献

令和 2 年 6 月 1 日からの北神線市営化により大幅な運賃低減が図られていることに加え、さらなる北神地域の地域活性化に貢献するため、市営化を契機に新たに発売し、好評を得た「有馬グルメ&湯けむりチケット」を継続して販売するなど、神戸電鉄との連携を一層深めていく。また、北神地域の拠点となる谷上駅へのアクセスの充実として令和 2 年 11 月に拡充した市バス 62 系統を引き続き運行するなど、地域活性化に貢献する。

(5) 神戸の魅力発信と乗客増の取り組み

北神エリアの魅力等、神戸の持つ魅力を発信するポスターを近畿圏の他の交通事業者の駅や車内に掲示するなど、交通局が持つネットワークを活用し、神戸の持つ魅力の市外での発信に努めるほか、神戸市域への集客を図ることで市営交通の乗客増を目指す。

5. 安定的な経営基盤の確立

4,924,983 千円

- ・職員一人ひとりが、公営交通の役割を理解し、圧倒的当事者意識を持って主体的に行動するとともに、めざすべき目標を共有しながら実行するべく組織力を強化する。また、交通サービスを持続的に提供し続けていくために必要な経営基盤を構築するとともに、計画の進捗状況の評価・検証、進行管理を徹底し確実な実行をはかる。

《次世代を支える人材の確保・育成／安定的な経営を支える基盤の構築》

(1) 乗客増加対策の推進

民間事業者と連携した利便性向上策など、新たな乗客増加対策を検討・実施するとともに、引き続き、沿線地域の企業や店舗と連携したイベントの実施など乗客増加対策を実施・検討する。

- ・市バス普通区 IC 定期券の利用拡大（再掲）
- ・IC カードの活用等による都心エリアの回遊性向上策の検討
- ・地下鉄におけるポイントサービス制度の検討（再掲）
- ・新港町周辺地域の通勤需要等に対応するための直行便の新設（再掲）
- ・摩耶山・六甲山等への輸送力強化のための急行バスの運行（再掲）
- ・スタンプラリーや謎解き等沿線地域への周遊性を持たせたイベントの開催
- ・映画やドラマ等とタイアップした SNS キャンペーン 等

(2) デジタルサイネージの設置拡充

広告料収入拡大に向け、乗客数の多い三宮駅で、新たに改札前に大型サイネージ、ホーム階に柱サイネージの設置を行い、デジタル広告媒体の拡充と価値の向上を図る。

(3) 市バス営業所の管理委託の継続

市バス事業における経営改善策として営業所の管理委託を継続する。

令和3年度をもって現在の委託契約期間を満了する魚崎営業所、松原営業所、落合営業所、西神営業所については、令和4年度から令和8年度までの5年間を契約期間とする提案競技を実施し、受託事業者を改めて選定する。

(スケジュール)

- ・ 募集要項の配布 令和3年2月8日
- ・ 応募提案書類の受付 令和3年3月下旬
- ・ 受託候補者の選定 令和3年5月以降
- ・ 近畿運輸局への許可申請 令和4年1月頃
- ・ 選定事業者による業務開始 令和4年4月1日

(現在の委託状況)

委託営業所	受託事業者	期間
魚崎営業所	神戸交通振興(株)	平成29年度～令和3年度
中央南営業所	神姫バス(株)	平成30年度～令和4年度
松原営業所	阪急バス(株)	平成29年度～令和3年度
落合営業所	神姫バス(株)	平成29年度～令和3年度
西神営業所	〃	平成29年度～令和3年度
清水が丘営業所	山陽バス(株)	令和2年度～令和6年度

(4) 新型コロナウイルス感染症拡大によるご利用状況に応じた減便の実施

市バスでは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うライフスタイルの変化により、利用者が減少傾向にあることから、令和3年度は「密」になることのないように最大限注意を払いながら、平日における1日あたりの総運行本数が200本を超える主要路線において、昼間から夜間帯の運行ダイヤの一部減便を行う。

また、今後の新型コロナウイルス感染症拡大による影響が不透明なことから、今後ともお客様の利用動向等を注視するとともに、ご利用状況に応じた運行ダイヤの見直し等について、令和4年度実施に向けて検討を行う。

市営地下鉄については、今後のホームドア設置にあわせてご利用状況も踏まえたダイヤ改正について検討する。

系統	運行区間	内 容	備考
2 系統	阪急六甲～青谷～布引～ 地下鉄三宮駅前～三宮神 社（元町1丁目）	平土休日とも往路10本、復路10本減便 平日：往路182本 → 172本 復路184本 → 174本	令和3年 4月1日 実施
7 系統	市民福祉交流センター前 三宮駅前～平野～新開地 ～神戸駅前	平土休日とも往路8本、復路8本減便 平日：往路113本 → 105本 復路113本 → 105本	
16 系統	阪神御影～JR 六甲道～阪 急六甲～六甲ケーブル下	平土休日とも往路8本、復路8本減便 平日：往路144本 → 136本 復路147本 → 139本	
64 系統	三宮駅ターミナル前（三宮 駅前）～新神戸駅前～箕谷 駅前～神戸北町	平土休日とも往路8本、復路5本減便 平日：往路122本 → 114本 復路131本 → 126本	
92 系統	石屋川車庫前～水道筋3丁 目～三宮センター街東口 ～三宮神社（元町1丁目）	平土休日とも往路8本、復路8本減便 平日：往路108本 → 100本 復路108本 → 100本	

（5）経営情報の発信とご利用状況の見える化

新型コロナウイルス感染症拡大によってご利用人数が大幅に減少しているため、より市バス・地下鉄を利用いただくため、情報発信を充実させる。具体的には、経営状況や路線ごとの収支状況・ご利用状況など交通局の現状をより分かりやすく、市民・利用者にお伝えし、理解いただくための経営情報の「見える化」を行う。その際には利用者に対して、分かりやすい情報開示の方法について検討する。

（6）経営計画の推進

経営計画に掲げた目標や取り組み事項について、その進捗状況を常に評価・検証を繰り返すとともに、複数のプロジェクトチームを立ち上げることによって、進行管理を徹底し、着実な実行を図る。